



引き続き、この秋も地域の皆様にお世話になります!

地域でつなぐキャリア教育

ご声援ありがとうございました



記憶に残る感動の3日間をありがとう!



MITOYA

島根三刀屋
県立高校

蒼雲

学校だより
第99号

10月は「地域産業研究」実習

11年生が3日間の事業所インターンシップへ
小中学校との違いは?
小学校から高校・大学等まで、すべての学校でキャリア教育が求められる今、小中学校でも職場体験学習は珍しくありません。雲南市では毎年10月に「夢」発見ウィークを設定し、今年も市内7中学校の3年生約350名が同一日程で職場体験学習を実施します。▽三刀屋高校でも10月14日から3日間の「地域産業研

究」実習を予定していますが、働く場を経験するだけでなく、事業所の皆様へのインタビューも交えて、地域の産業や社会が抱える課題とその解決策を探究することとしています。地域の皆様の厚いご支援が実現となる実習です。ご負担をお掛けしますが、よろしくご協力をお願いいたします。



↑ 願いは「世々来い」♪ 昨年の三刀屋太鼓に続き、今年の文化祭では三高生9名も活動する市内よさこいチーム「TEAM 輪音天咲」が会場を熱くした。地域とともに歩む三高ならではのステージ! 代表を務める周藤さんによれば「活動をはじめて9年になるが、こんなに会場と一体となって盛り上がったのは初めて」とのことだった。夏休み中の小学生の皆さんにも出演してもらいました。



生徒会長(3年勝部聡さん)と生徒会執行部の企画力・リーダーシップ、見事でした。お疲れ様でした。記憶に残る三高祭となりました。10月からは2年生中心の執行部にバトンタッチです。



↑ 人、人、人、人、人……人の多さに驚かされるテント席。テント席以外にも人が溢れ、保護者、卒業生、地域の皆様からの熱い! 厚い! 声援に 感謝! 感謝! 感謝!



【発行所】
三刀屋高等学校
〒690-2404
雲南市三刀屋町
三刀屋912-2
TEL: 0854-45-2721
FAX: 0854-45-5630

【印刷所】
有限会社木次印刷
〒699-1312
雲南市木次町山方
630-5
TEL: 0854-42-8133
FAX: 0854-42-8155



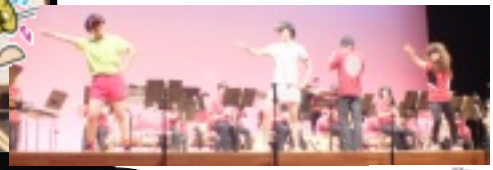
文化祭 ①8/28(金)三刀屋文化体育館アスナル
②8/29(土)三刀屋高校

元気の出る演奏、いつもいつもありがとう!

吹奏楽



吹奏楽部3年生は文化祭で引退。お疲れ様でした。昔の高校生もお疲れ様でした!



↑JRC部員と交流のある特別養護老人ホーム梅里苑の皆様にもご来場いただき、ステージ前でご覧いただきました

1年生部員は初舞台



箏曲

家庭クラブ

自然科学

ダンス同好会



1年クラス発表



生徒会企画&ロックコンサート



作品展



書道 写真 美術

→各教室を会場とする2年生のクラス展示は長蛇の列

2年クラス展示



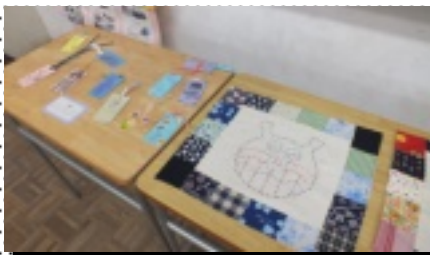
P.T.A模擬店
ありがとうございました

無敵歓待

よさこい「TEAM 輪音天咲(りんねてんしょう)」
+2年生有志+生徒会飛び入り=熱気ムンムン



3年パビリオン



出雲養護学校の雲南分教室の紹介コーナー

分教室はまだ夏休み中のため、今回は展示で参加してもらいました。

箏曲

華道



茶道

文化部の鉄人:上田君のお点前



JRC

昇降口で募金活動

人生はバランスが大切



鼻高々



天も味方した三高祭!

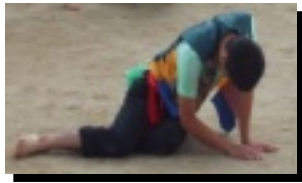
前夜の雨で朝はグラウンドに水たまりがあったものの、日中は好天の下での体育祭となりました。



人生はかくも辛いもの

体育祭

正調グリコ



→平成の牛若集団



つながる縁を大切に



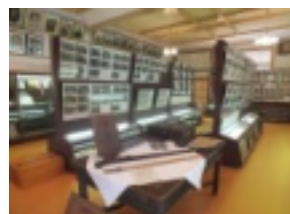
幸せは自分の手で



会長、快調!



助けて、今行くゾ



蒼雲館公開

学園祭期間中は毎年玄関前の蒼雲館を公開して、本校の歴史を振り返る品々をご覧いただけます。今年も本紙で紹介した火縄銃も陳列しました。



文芸

鳥根県高文連文芸コンクール

部員全員が入賞

【随筆部門】

▼優秀2位

「大切な人へ」

影山朋末(2年)

(1位は該当なしのため実質1位)

【俳句部門】

▼優良

伊藤華恵(1年)

周藤真希(2年)

幸村蒼依(3年)

▼佳作

影山朋末(2年)

市場真生(2年)

※以上の部員の作品が全国コンクールに出品される。

※なお、左の俳句は第18回俳句甲子園に出品した作品。

季節語「朧(おぼろ)」

「母の日」「若葉」と決まっていたために苦労したとのこと。文芸部誌『日和』にも掲載してあるので、ぜひ手に取ってお読みいただきたい。

文化祭に合わせて刊行した平成27年度文芸部誌『日和』(下)と俳句作品(左)。



季節語「母の日」

▼母の日や 微笑むむすめ かぐわしい

▼母の日や 祖母のためにと 母悩む

▼母の日や 母が放った 「くれるよね?」

▼母の日や 咲く一輪の 愛の花

▼母の日に 一品増えた 晩御飯

【随筆部門】 影山さんが優秀2位

「大切な人へ」

影山 朋末(2年)

あれは夏休みに入りかけた暑い夏の日のことだった。私は暑さで目を覚ました。家族の様子を見れば皆忙しそうにしている。どうしたのだろう、と思いつつ事情を聞こうとした時、母の言葉にさざざらせた。
「おばあちゃんが……」

私の祖母は二・三か月前から入院をしていた。若いころからがんを患っていたが、比較的元気な方ではあった。しかしある日容体が急変した。そこから病院まで救急車で運ばれた。祖母が入院し、静かになった家。私は祖母の命がもう長くはないという現実、自分の生活が変わってしまうという恐怖、どうしようもない悲しみ、様々なことを感じていた。家族が病院から帰ってきた。祖母の容体を聞けば、大丈夫だといった。その言葉で少し安心はしたが、数日で祖母

がこの世からいなくなってしまうのではないかと不安は大きくなる一方だった。しかしそんな不安とは裏腹に、祖母は順調に回復していった。食卓で話す話題は祖母のことばかり。私の中から、祖母がいなくなってしまうかもしれないという不安は徐々に消えていった。しかし祖母は病院を変え、そう、あの暑い夏の日。私たちは病院の先生に呼び出された。

病院にいったとき、祖母はずでに息をひきとっていた。悲しいと、かような感情よりも、現実を受け入れられない自分がいた。祖母は人形のようなだった。とて「生きていた」とは思えなかつた。父と母は姉と兄に電話をかけてるために病室を後にした。残された私と祖父。もう少し近くに來いという祖父の言葉に私は首を横に振った。私はどうしても近くで祖母を見ることができなかつた。

「とうとうおばあさんも逝ってしまったわ……」
祖父のその悲しそうな一言だけが病室に響いた。
病院の人の手つきは慣れたもので祖母はどこかへ運ばれていった。私たちは家に帰り、葬式の準備を始めた。準備といつても子どもの私は何もすることがなかつた。家族が何をしているのかさえないからなかつた。飛び交う電話の音、それにつれて集まった地域の人の、親戚たち、淡々と進む片づけ。何時間もたつたうち、納棺師の時間がやってくる。たくさんの菊の花と大きな棺桶。私たちは納棺師の指示通りに祖母の口元に割り箸で水を運ぶ。全員が終ると祖母は棺の中におさまられた。そして祖母の周りに花だけにした菊の花が敷き詰められた。祖母は花の中で眠っているように見えた。感傷にふけっている間もなく、通夜が始まった。二時間もすれば通夜は終わり、私たちはそれぞれの時間を過ごした。

次の日になり、いよいよ祖母が埋葬される時がやってきました。祖母は霊柩車に乗せられ、火葬場へ運ばれた。骨だけになった祖母の姿は、とても小さく、軽く、もろなれば、大人何人かを持ち上げなければならなかつた。祖母は、子どもひとりだけでどの小さな箱に収まった。姿が小さくなった祖母の姿を受け入れられないままだった。泣くことも出来なかつた。そして、葬式が行われた。実にたくさんの人が祖母を見送るためにやってきました。遺影の中で微笑む祖母は、とても懐かしかった。僧侶の説教をはじめ、その説教にあるわせるかのように、私の中の記憶が現れては消えていく。

「おばあちゃん!見て見て!」
姉兄と年が離れていて、遊び相手がいなかった私は毎日のように外で遊んではとった虫やカエルや草を祖母のもとまで見せに行っていた。「たくさんと笑うねえ」と縁側でつこりと笑う祖母。それに合わせて私も笑う。幼い日の淡い記憶。
失いたくないはずなのに、祖母がいなくなった途端に声がおぼろけになっていく。祖母との会話が思い出せなくなっていく。なぜあの時、はむかかってしまったのか。なぜもつとお見舞いに行かなかつたのか。なぜこうなることを考えたのか。なぜ拒んできたのか。そしてまだ生きている、まだ死ぬことはないという甘い考えを持ってしまったのか。本で読んだことがある。「本当に大切なものは失ってからは気づく」と。本当に私は祖母がいなくなつてから祖母との時間がかけがえのないものだったと気づいた。しかし気づいてもなお、涙が出てくることはなかつた。祖母が生まれてきたことが当たり前だった空間。祖母が生きていることが当たり前だった空間。祖母がいなくなつたことに違和感を覚える空間。そして祖母がいなくなつたことが当たり前になつていく空間。



地域イベント盛り沢山の秋を迎えました

発表の場/自己表現の場
研修の場/交流の場 etc.



今年で5回目を迎えた雲南市立病院の「病院祭」が開催され、講演・コンサートや安来節ショーなど多彩な催し物で賑わった。
初参加の本校は、3年生の看護医療系への進学志望者7名が、課題研究で取り組んだテーマ「高齢者が健康で安心して暮らせる社会を実現するために理学療法士ができること」と「鳥根での子供の看護の理想的な姿」の2件についてポスターセッションを行い、医療関係者からも貴重なご意見をいただく場ともなった。
このほか、2年生4名が展示ブースのボランティアとして参加した(写真はクイズ・スタンプリー)。



三高新時代への胎動 地域とともに

地域でつなぐキャリア教育モデル事業実践校

シリーズ 第13回

雲南市は「平和を」の都市宣言の町です

終戦から70年の Takashi



三刀屋高校学園祭では

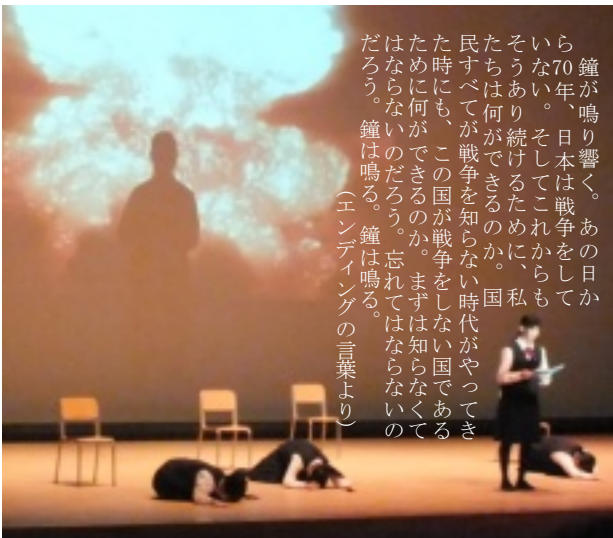
1 朗読劇『Takashi』

演劇

アスパルでの文化祭初日のステージでは、雲南市民演劇発の『Takashi』を30分バージョンの朗読劇で上演しました(脚本: 亀尾佳宏掛合分校教諭)。永井隆博士と母を原爆で失った二人の幼子との会話を交えた場面もあり、日常の何気ない幸せな生活を奪い取っていく戦争の悲惨さ、悲しみを朗読劇で伝えました。



永井博士は長崎での被爆から3年後、周囲の協力によって如己(にょこ)堂を建て、このわずかに2畳の部屋で2人の子ともと暮らしました。白血病に侵され、病床上に伏しながらも世界中の人々に戦争の愚かさ、平和の尊さを訴え続けました。平成20年に博士の生誕百年を記念し、長崎の如己堂が雲南市三刀屋町の永井隆記念館前庭に復元されました(写真上)。



2 「戦後70年三高から平和を ~永井隆博士から受け継ぐこと~」展

図書委員会

終戦から70年を機にあらためて平和の尊さを感じ考えてもらおうと、図書委員会では雲南市出身の永井隆博士の足跡を紹介しながら、世界平和を願って行動した博士の思いを伝える展示を行いました。生徒は展示資料をもとにしたクイズにも挑戦し、平和への願いを込めた寄せ書きもいっぱいになりました(写真下)。

雲南市と同教育委員会が主催する第25回「永井隆平和賞」には、全国から1,500点が寄せられました。三刀屋高校からは2年生全員が応募し、高校の部で内藤舞さんの「永井隆の夢見た未来」が佳作に入り、三刀屋文化体育館アスパルで開催された同賞の発表式典で表彰されました。

9/13 第25回「永井隆平和賞」発表式典
内藤さん(2年)佳作
「永井隆の夢見た未来」
戦後70年 永井隆博士から学ぶこと
平和・未来につながる



本校文化祭での寄せ書きのほか、雲南市成人式会場等での寄せ書きも展示。

戦後70年の「永井隆平和賞」の記念事業として、発表式典当日は各種展示のほか、市民が平和への思い・考えを語りあう場が設けられました。会場の三刀屋文化体育館アスパルの小ホールでは、中高生から大学生、社会人まで57名が9つのグループに分かれ、1時間半にわたって平和への思いを熱く語り合いました(写真下)。



永井博士の足跡を紹介する展示を見ながらクイズに挑戦中!



→中央の「平和を」の文字は永井博士の書の複製。図書館では特集展示を見ながら、来館者には平和を願う言葉を寄せ書きし、永井隆平和賞の発表式典の会場にも掲示させていただきました。



地域産業研究実習の準備中です

マナー講座

9/9

1年生は、来月に3日間予定する「地域産業研究」実習のために1学期から準備を重ねてきました。
9月9日には「株式会社さんぼう」から、航空会社の客室乗務員の経歴も持つ加藤節子氏をお招きし、職場や社会で必要とされる礼法と心構えについて学びました。

防犯教室

9/8

1学期の交通安全講話に続いて、今学期も雲南警察署から講師をお招きして全校対象の「防犯教室」を開催しました。インターネットや自転車運転をめぐるトラブル、非行事案等について実際の発生事例をもとに、犯罪や非行を「しない」ことはもちろん、「巻き込まれない」「させない」ための心構えについてもお話しいただきました。

家庭科

9/3

三刀屋保育所で実習
選択授業「子どもの発達と保育」を履修する3年生の5名が、9月3日の放課後、高校近くの三刀屋保育所を訪問して幼児と交流しました。
授業での学びを生かし、子どもとの接し方、保育士としての職業観や心構えを再確認しました。

水泳
県高校水泳新人戦
(8/23、県立プール)
中国新人大会出場権獲得
吉川航輝(1年)
▽男子平泳ぎ百m1位
▽男子平泳ぎ二百m2位



初秋のスタートダッシュ

8月(試合結果)

<予選Dリーグ> 8/22、大東球場

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
三刀屋	5	1	0	0	0	0	0	0		6
大東	0	0	0	0	0	2	0	3		5

※制限時間の2時間10分を超えたため8回で試合終了

<同上> 8/22、大東球場

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
出雲工業	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
三刀屋	0	0	0	2	0	1	0	0	×	3

<決勝トーナメント> 8/23、出雲農林高校

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
三刀屋	0	0	0	2	4	0	0	1	0	7
大社A	0	3	0	0	0	0	0	1	0	4

<決勝> 8/23、出雲農林高校

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
三刀屋	1	0	2	0	1	2	0	4		10
飯南	0	0	0	1	1	0	0	1		3

規定により8回コールド

一戦一戦 成長の秋!



野球

秋季出雲地区大会を制す

昨年の春秋覇者/大社高も下して!!

11校が参加しての秋季出雲地区大会を三刀屋が制した。上位大会につながるものではないが、新チームの今後を占い、秋の県大会に弾みをつける重要な今大会で、夏の県大会決勝進出の大会、準決勝進出の大社を下しての優勝は大きな自信となった。この勢いを大切に県大会に臨んでもらいたい。



9月

男女アベックV

島根県高校選手権

女子 全試合コールド勝ち
男子 王座奪還

(9/12~13、松江商業高校グラウンド)

男子

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	計
安来	2	0	0	0	0			2
三刀屋	2	0	8	1	×			11

女子

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	計
三刀屋	3	1	0	4	6			14
大東	0	0	0	0	1			1

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	計
三刀屋	9	4	17					30
大社	0	0	4					4

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	計
出雲商業	0	0	0	0	0			0
三刀屋	1	1	0	1	4	×		7

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	計
三刀屋	8	7	4	2	3			24
浜田商業	0	0	0	0	0			0

島根県高校秋季野球大会兼秋季中国地区高校野球大会

<秋季一次大会2回戦> 9/13、浜田市野球場

先制するも逆転許す!(7回コールド)

野球

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
三刀屋	2	1	0	0	0	1	0			4
大社	1	0	0	7	1	3	×			12



【女子:対出雲商業高校】3チームによる1位リーグ戦の初戦、5回裏の攻撃で満塁から山本(1年)がセンター前ヒットを放ち、7点目をあげてコールド勝ち。

今号は14日朝に出稿したため、直前の12日(土)、13日(日)の各部大会結果については記録のみとさせていただきます。

本校と中学3年生の保護者の皆様へ

お知らせとお願い ご予定をお願いします

- 保護者の皆様へ 11/16(月) **PTAキャンパスツアー**
・岡山大学、岡山理科大学を見学します。
- 2年生保護者の皆様へ 9/25(金) **2年生保護者進路ガイダンス**
・研修旅行について
・3年次選択科目について 他
- 中学3年生の保護者の皆様へ 9/26(土) **三刀屋高校説明会**
16:30~17:30 本校大講義室(中学3年生も参加可)
- 中学3年生の皆さんへ 11/14(土) **第2回オープンキャンパス**
8月末に続く2回目の開催です。

日	曜	学校行事等	部活等
1	木	中間試験3日目 大学入試センター試験出願開始	
2	金	中間試験最終日	
3	土		
4	日		
5	月		
6	火		
7	水		
8	木		
9	金	3年全統M模試 英検1次	
10	土	3年全統M模試	
11	日		
12	月	体育の日	
13	火	2年東京研修旅行	
14	水		
15	木		
16	金	1年地域産業研究実習 3年進駿記述模試 2年代休	
17	土	3年進駿記述模試	華道
18	日		華道
19	月	下校パトロール~11/6 地域産業研究実習振返り	華道
20	火	学習時間調査	
21	水	6限授業 SC来校日	
22	木		写真(本校)
23	金		美術
24	土	3年全統記述模試	ソフトボール(本校)
25	日		ソフトボール(本校)
26	月	浜田真理子スクールコンサート	
27	火	生徒総会	
28	水	球技大会	
29	木		書道
30	金		書道 箏曲 陸上 JRC テニス バスケ 剣道 柔道
31	土	3年オープン模試	書道 陸上 テニス バスケ 剣道 柔道

錦織良成監督映画『たたら侍』を勝手に応援するシリーズ

斐伊川今昔物語 第14回 「たたら侍の主人公の父『村下』と鉄師」

錦織良成監督の映画『たたら侍』の撮影が本格化してきた。報道によると、「たたら製鉄の現場技師長たる村下(むらげ)の家」に生まれた主人公が、織田信長に触発されて侍になろうと一度は故郷を去るが、日本刀を支える鉄づくりの意味に気づいて帰郷する」というストーリーだ。

たたら製鉄の現場の最高責任者が村下である。高殿と呼ぶ常設施設の中で、操業のたびに粘土で炉を造り、炉の中に砂鉄と木炭を交

互に投入しながら三昼夜約70時間燃やし続けて日本刀の原料となる高純度の鉄塊(玉鋼)を造る。その工程を命がけでリードするのが村下だ。昭和52年に復活し、現在では全国で一箇所操業を続ける奥出雲町の日刀保たたらでは、先人の技を受け継いだ現代の村下、木原明氏と渡部勝彦氏の両名が後継者の育成にもあたっている。

一方、近世たたら製鉄全体の経営者が鉄師である。原料砂鉄を採取する鉄穴流しから、砂鉄と一緒

に三昼夜燃やし続けるための大量の木炭調達のために広大な森林も所有し、造った鉄を陸路や水上交通で送り出す輸送も担い、さらには鉄穴流しの跡地を棚田に再利用することも含めて、裾野の広いたたら製鉄関連事業の総合プロデューサーだった。山間地の農家にとつては、農耕以外の貴重な収入源を得る場を提供する存在でもあった。

奥出雲を代表する鉄師が田部・糸原・櫻井の御三家で、今日ではいずれも資料館が公開され、たたら関係の展示を見学することができ。このほかにも奥出雲町のト藏(ぼくら)・杠(ゆずりは)・安来市広瀬町の家島、雲南市大東町下久野の石原家も鉄師として知られた。この夏初めて訪れた安来



雲南市大東町上久野に隣接する安来市広瀬町西谷の旧家もたたらを経営し、周辺でも鉄穴流しが盛んに行われていた。

本校も多大な支援を受けた田部家23代田部長右衛門朋之氏の生誕110年を記念した企画展「田部松露亭展」が松江市北堀町の田部美術館で開催中です(9月27日まで)。

市広瀬町西谷の某家も明治・大正期までたたら製鉄にかかわり、その邸宅は往時の姿を今も伝える(写真)。
なお、松江藩は領内でのたたら製鉄に制約を加えることがあったため、吉田の鉄師田部家は広瀬藩三万石の領地に目を向けたようだ。田部家の古文書調査から明らかになってきたらしい。三万石の領地の半分は、前号でも話題にした飯南町を含む。安来市広瀬町や飯石郡飯南町でのたたら製鉄の盛衰も、田部家との係わりがあるようだ。

さんこう 三高91年物語



第16回 寄宿舎「和敬寮」

昭和35年から53年春まで使用された昔の和敬寮。直前まで三刀屋中学校の校舎として使用されていた（三刀屋天満宮参道沿い）。



恩田校長が生まれた昭和32年暮れに寄宿舎改築の陳情書が県教委へ提出されたが、手狭な敷地などがネックとなって建設計画は難航した。そうした中、昭和33年度中に三刀屋中学校、鍋山中学校、雲見中学校の三校を統合して新三刀屋中学校が開校し、翌年に現校地に移転（34年度三刀屋中学生徒数757名）したのを機に、旧三刀屋中学校の校舎を300万円で購入して高校の寄宿舎とした。もとは昭和2年に建設が始まった三刀屋小学校の校舎で、二度の大改修を経て三刀屋高校の寄宿舎に生まれ変わった。

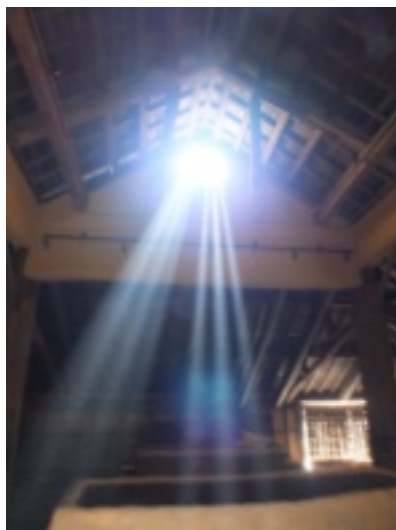
珍しかった男女共宿の寮

新しい寮は、三刀屋天満宮の参道沿いに位置したことから当初は天神寮と呼ばれたが、後に飯塚一雄校長（中学1期卒）が、茶道で重んじられる言葉を用いて和敬寮と命名された。35年度は男子24名、女子33名、計57名が入寮し、当時は全国でも珍しい男女共宿の寄宿舎として、新聞の全国紙で紹介されたという。

その寮生の数を毎年上回ったのが下宿生で、寮の定員拡充が強く求められて新築も計画されるようになった。校庭が国の基準の三分の一という狭さもあり、和敬寮を他へ移転させ、跡地を第二グラウンドとして使用する構想の下、昭和48年度には県予算で土地

（次号につづく）

菅谷高殿の光



（平成27年9月13日午前9時50分撮影）

雲南市吉田町の菅谷高殿は、田部家のたたら製鉄の中心をなし、江戸後期には年間200トンの鉄を生産していた。高殿様式の現存するものとしては全国唯一、昭和42年に国の重要文化財に指定された。写真の下部に見える四角い炉は、この高殿の最後の村下によって築かれたもので、朝日が天窓の格子から六筋の光となって炉に向かう姿は神々しく、手を合わせたくなるような光景だ。再来年からの運行を計画するJR西日本の豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス瑞風」も呼込む希望の光だ。

雲南の顔 新旧



雲南市新庁舎が完成 内部設計は本校OB

ふる里&母校への熱い思い！

2学期始業式の校長訓話の中で、二人の本校卒業生が紹介された。

一人は竹部友久氏（旧姓須藤、父は本校バスケットボール黄金時代を築いた須藤昌幸元校長）。来月13日に業務運用がスタートする雲南市新庁舎の内部設計を担当した方だ。

小学校時代に、昭和39年の東京五輪の会場として建設された代々木体育館の姿に感動し、自分も将来は大きな設計に携わりたいと工学部を目指すようになったとのことだ。

新庁舎については雲南市報

9月号でも詳しく紹介されているが、町作りの拠点かつ防災拠点としての役割を担って設計され、随所に環境に配慮した省エネルギー対策が施されている。竹部氏の熱い思いが、故郷の新時代を担う施設に結実することとなった。環境工学の視点から、課題研究の対象とする生徒が出てくることも。



もう一人は、駿馬進路指導部長と同級生の坂本雅俊氏。東京都千代田区に本社があるアルプロン製薬株式会社の社長さんだ。同社は、法人化後の島根大学発のベンチャー企業第一号としても知られ、健

康食品としてβグルカンを製造する会社として設立された。現在では、パン酵母から世界最高水準のβグルカン抽出技術を開発して評価が高い。いわゆるプロテインの製造、販売にあたる会社で、アスリートへの支援事業も行う。故郷に少しでも貢献したいと、平成21年に雲南市加茂町に島根工場を設立し、このたびは同工場を通じてエネルギー飲料を全校生徒に頂いた。若い頃に抱いた「いつかは故郷のために」との熱い思いが伝わってくる。



これから11月まで、毎週末に市内のどこかで元気なイベントが続きます。吹奏楽部の招待演奏をはじめ、ボランティア参加の三高生の姿も目にする事が多くなると、追っかけ取材も大変です。開催日によっては学校の定期試験や校内行事が重なって高校生が参加できないこともありませんが、ご理解をお願いいたします。（編集長記）

前号で、本校OBの渡部俊美氏から寄贈いただいた作品を「油絵」と紹介しましたが、正しくは「日本画」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。